

学位取得 おめでとうございます

新しいステージへ

ご卒業、おめでとうございます。皆さんは4年間さまざまな講義での学びと共に、研究、実験、製作、レポートづくりに本学で励まれ、この時を迎えました。それぞれの分野で取り組んだ一日一日が技術者の眼差しを育み、磨き上げてきたことでしょう。



理事長 柳澤 章

振り返れば、受験勉強の時点で新型コロナウイルス感染症が発生し、瞬く間に世界を覆いました。大きな混乱と手探りが繰り返される世相は、若い感性に様々な思いを抱かせたのではないのでしょうか。安全確保のために開発された製品は数多く、技術の持つ力をあらためて感じたかもしれません。

この時代の時代は、どのように展開していくのでしょうか。世界の政治経済の動向は厳しい状況が続く、例えば気候変動への取り組みが後戻りする事態へと進むことが心配されることです。これまでの消費者という立場から、これからは商品・サービスなどを提供、開発する側で活躍していくのが皆さんです。本学で培った技術を活用、実践、具体化した課題や人々の「こまごま」に応えていきたいと思います。

広い視野と共感力を持って

ご卒業おめでとうございます。現在の世界的な政治の不安定は資本主義社会全体を巻き込み、VUCA(ブーカ)と総称される将来の予測が困難な状況を迎えています。そしてエンジニアは技術革新を通じて、社会の安定と発展に貢献することが求められています。皆さんが本学で培った知識と経験は、より良い社会の構築に大いに役立つはずです。



学長 竹内 貞雄

社会に旅立つ皆さんに贈りたいメッセージがあります。「広い視野と共感力を持った技術者」として活躍して欲しいということですね。我々がこれから解決しなければならぬ課題は数多く存在します。例えば、頻発する大規模自然災害への対応と復興、気候変動対策と再生可能エネルギーへの移行、我が国における少子高齢

AIとロボットにより働き手不足は解消したが失業率が上昇する等、目の前の結果だけを追ってしまい、意図しない結果を迎えてしまうこともあります。そうならぬためには「俯瞰的に物事を見る広い視野と深い教養」を涵養すること、科学技術がどのような効果や影響を与えるか「人や社会に寄り添う気持ち」が重要になってくるのではないかと思います。また、皆さんを取り巻くコミュニティは友人や同級生、教職員だけではなく、4万5000人に及ぶ卒業生、そして皆さんの後に続く後輩など「本学で培った人脈」はかけがえのない資産です。それが同窓生の強みです。卒業してもこれらの資産を大いに有効活用して、社会で大きく羽ばたいてください。

埼玉県教育委員会と連携協定



竹内学長(左)と日吉教育長

本協定は、相互の密接な協力により産業人材等の育成に向けた教育活動の推進に寄与することを目的としている。協定締結式は11月25日、埼玉県庁で執り行われた。協定締結にあたり同委員会の日吉教育長は、本学による県内中学校・高等学校における教育支援の実績を高く評価

白岡高等学校と連携協定



竹内学長(右)と須賀校長

1月9日、本学で協定締結式が行われた。竹内学長は「生徒一人ひとりが学ぶ喜びを二層感じられるよう、双方の教職員で協力して取り組んでいきたい」と述べた。須賀校長は「大学の講義や実習への参加、研究室インターンシップなど高度な教育・研究環境を活かした実践的学びが生徒たちにとって貴重な経験となることは間違いなく」と期待した。今後は双方の教育資源を有効に活用しながら、高大連携教育の発展を目指して行く。

省エネ大賞受賞

LCセンターの省エネ活動を評価 設備投資ゼロでCO2を大幅削減

LCセンター(図書館)は「新たな設備投資を伴わない身近に行う省エネ活動」の取り組みと成果が評価され、2024年度省エネ大賞省エネ事例部門「省エネルギーセンター会長賞」を受賞した。

本賞は事業所等の模範となる優れた省エネ、脱炭素の取り組みを毎年表彰している。

同センターではビル管理システムのデータ分析と活用、館外から館内へ空調管理の移行、自然換気の積極利用、照明の間引き等を実施。利用者の快適性と書庫環境を維持しつつ2023年度CO2排出量の前年比31.0%(122t)削減、原油換算で31.4%(64kl)削減を達成し、高く評価された。



本賞実施者の中村さんが表彰式に出席



LCセンターの外観とロゴマーク

2024年度 学長賞

学長賞は学業成績が特に優秀な学部卒業生と大学院修了生を対象とし、学会等への論文投稿や表彰件数などの実績をもとに選考される。

■学長賞（学部生）

学 科	氏 名	出身校	
機械工学科	高城 亮	川越工業高校	
	福田 蒼馬	鴻巣高校	
	藤沼 響輝	小山高校	
電気電子通信工学科	松木 雄太	前橋工業高校	
	渡邊 龍生	栃木工業高校	
応用化学科	桑原 大和	いづみ高校	
ロボティクス学科	関口 総司	新座総合技術高校	
	新田 真紀人	福島工業高校	
情報メディア工学科	正武迫 真奈	鹿島学園高校	
	鈴木 琢真	真岡高校	
	宮川 大輝	春日部東高校	
建築学科	建築コース	中村 璃絃	富士北稜高校
		松本 時於	都島工業高校
	生活環境デザインコース	渡邊 智哉	米沢工業高校
		長山 和奏	川口市立高校

■学長賞（大学院生）

専 攻	氏 名
環境共生システム学専攻	加藤 颯人
	内藤 友哉
機械システム工学専攻	石原 颯斗
	中野 碧
電子情報メディア工学専攻	稲葉 賢駿
	岡部 泰弘
建築デザイン学専攻	仲島 和真
	輿石 悠介
	水野 聖巴

学長と学生代表がランチで意見交換

12月23日、学長と学生自治会新代表者の懇親昼食会が開催された。大学からは竹内学長、上野学生支援部長に加え、大学執行部より吉野見交換を行った。

教務部長、荒川教育研究推進室長が参加した。学生自治会からは中林中央執行委員長ら各委員長が参加し、有意義な意見交換を行った。



昼食会の開始直後は学生の表情が緊張した様子だったが、自己紹介や各委員会の目標・抱負など意見交換が活発化すると、次第に、和やかな雰囲気となった。

竹内学長は「新入生歓迎イベントである春祭りの成果もあり、課外活

動団体加入者数が増加している。限られた予算の中で、学生自治会の活動が多くなることを期待している」と語った。

中林中央執行委員長は「少子化による学生数の変化に対応できるよう、学生自治会則の整備を図り、学生自治会の持続的



な発展に貢献していきたい」と述べた。

また、各委員会の目標や抱負について話が及ぶと、本宮大学祭実行委員長は「大学祭実行委員会が一丸となって、本学最大の学生イベントである若杉祭を次年度も盛り上げていきたい」と意気込みを語った。

最後に竹内学長から「新入生の加入率が決定する6月頃を目途に、再び昼食会を開催し、意見交換を実施しよう」と提案があり、大学と学生自治の更なる関係強化に向けて期待が高まった。

専門職大学院だより

社会人大学院のすすめ

大学院技術経営研究科・教授 五十嵐博一

卒業生のみならず、ご家族のみならず、おめでとうございます。

神田キャンパスの専門職大学院でも、社会人大学院生活を終えたみなさんが修了式を迎えます。

専門職大学院は、社会人経験を積んだ方々を対象とした1年制のビジネススクールです。1年間という短い期間ですが、社会人大学院生のみならず、充実した学生生活を送っています。

専門職大学院で学ぶ際には、学業と仕事や家庭を両立させるために、それなりの苦勞が伴います。

しかしここでは、苦勞を承知で、自らの意思で学ぶ機会を求めて入学した方々が集まっています。

毎年の専門職大学院に入学してくる社会人大学院生の皆さんががんばっている姿を間近で見ると、私自身の体験を思い出し、がんばって苦勞を乗り越えた先に、今まで感じたことのないような充実感や達成感が得られるはずだと、心の中で応援しています。

実際、私自身が専門職大学院を卒業したときに、何とも言えない充実感と達成感を得ることが

でき、社会人大学院入生という選択をした1年前の自分を自分で褒めてやりたいと思ったものでした。そしてまた、社会人になってからも、学ぶ機会を求めることはできるのだということを実感しました。

学部を卒業したみなさんや大学院を修了したみなさんの多くは、4月から社会人生活をスタートさせるとしています。社会人になってから、もしも、また勉強してみたいと思ったならば、神田キャンパスの専門職大学院を思い出してください。

埼玉キャンパスとは異なる環境で、社会人大学院生活を送るのも悪くないものです。

カレッジマイスターを42名が取得

カレッジマイスタープログラムでは、各プログラム分野において高い見識・知識および技術を身につけたと認められた学生に、マイスターの称号が与えられる。今回は42名が3学年修了時にカレッジマイスターの称号を得ており、その中でも特に優れた19名には、学位記授与式においてカレッジマイスターエクセレントの賞状とゴールドメダルが授与される。これらの受賞者は、今後

も「ものづくり」における高い総合力を発揮し、社会に大きく貢献することが期待される。各プログラムの受賞者数は、機械加工工房4名、フォーミュラ工房2名、モノ創りデザイン工房1名、知能化モビリティ2名、Science Grit1名、SDGs for Engineers1名、ヒューマノイドロボット研究2名、フィジカルコンピューティング工房3名、木造建築工房3名である。



フォーミュラ工房



ロボット製作プロジェクト



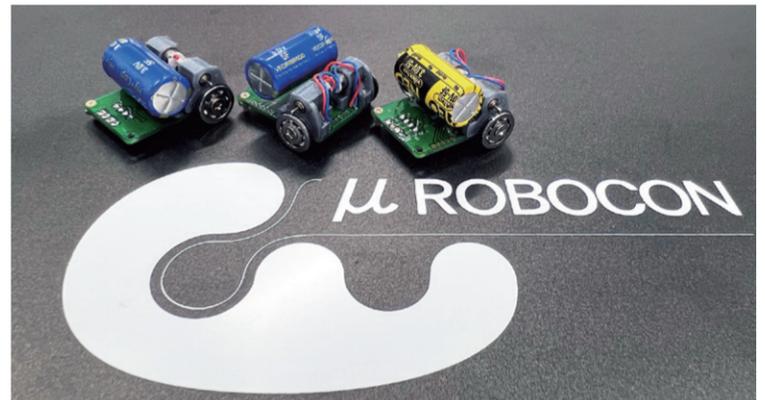
知能化モビリティ



木造建築工房

マイクロボコン高校生大会

5都県から56台が参戦 今年も愛媛県勢が躍進！



1インチ部門の機体。名刺サイズのネームカード部門も設定

第18回大会は、オンラインでの開催となった。5都県から56台のエントリーがあり、予選通過は1インチ部門13台、ネームカード部門は8台であった。決勝用コースでの競技の結果、1インチ部門では今年も優勝を含め入賞を愛媛県が多数占める結果となった。ネームカード部門では最小回転半径が大きくなるために1インチ部門

に比べて高速走行が難しいことが結果にも表れた。実行委員会が準備した1インチモデルの上位入賞者は現れなかった。課題研究や大会への参加を促すため、再現性と調整しやすさを向上させたキットを今年度から配布可能とした。キットおよび製作講習会の希望は学校単位で受け付ける。

競技結果表

順位	高校名	操縦者	マシン名
優勝	愛媛県立松山工業高等学校	藤江 凜人	萌え萌えドキュン
準優勝	愛媛県立松山工業高等学校	玉井 統渉	闇のアルバイター
第三位	愛媛県立今治工業高等学校	廣木 佑希	ズッキーニ
第四位	愛媛県立松山工業高等学校	大谷 峻也	最低速度違反
第五位	東京都立八王子桑志高等学校	渡邊 新之介	幸成 Mark II
第六位	愛媛県立東予高等学校	瀬野 優斗	とまと
第七位	東京都立八王子桑志高等学校	天野 由梨	ゴーイングクラゲ号
第八位	東京都立八王子桑志高等学校	原澤 俊彰	夜鷹
優勝	福島県立小高産業技術高等学校	平井 悠斗	Hillary
準優勝	長野県松本工業高等学校	丸山 智晃	黒豆
第三位	長野県松本工業高等学校	増田 あさひ	UwU
第四位	福島県立小高産業技術高等学校	早川 蓮人	薄っぺらい嘘
第五位	福島県立小高産業技術高等学校	富田 あおい	伸縮自在の夢
技術賞	愛媛県立今治工業高等学校	廣木 佑希	ズッキーニ
デザイン賞	小高産業技術高等学校	鹿又 一牙	こせ道
エコロジー賞	浦和実業学園高等学校	海老澤 陽介	UJ2403
学長賞	長野県松本工業高等学校		
工友会賞	愛媛県立新居浜工業高等学校		

※高等学校が受賞対象

工業技術博物館特別展・特別講演会

研削盤の歴史とその産業への貢献史を探る

工業技術博物館の2024年度の特別展「研削盤の歴史とその産業への貢献史を探る」が、11月6日から3月31日まで開催されている。この特別展のオープニング的な位置付けにある第29回特別展・特別講演会が11月14日に開催された。

特別講演会は、LCCセンターマルチメディア教室にて、博物館の林正弘准教授の司会で進行した。花木義隆博物館後援会会長（元オークマ株式会社代表取締役会長）、柳澤章理事長から挨拶の後、清水伸二館長から本特別展の開催趣旨と概要



講師の向井氏

各講演後の質疑応答も活発で、参加者からは素晴らしい講演であったと好評であった。講演会開始前の午前中から、本館で開催中の特別展も併せて見学する参加者も多く、有意義な企画となった。

誕生・発展史」と題して、研削盤の歴史を振り返るのに相応しい2件の特別講演が行われた。研削盤は各種機械製品の高性能化に大きな貢献をしてきた工作機械である。工作機械関係者にとっては興味深いテーマであったことから、後援会の会員以外から19名、学生は15名が参加し、総数75名と多くの参加者が集まった。

工業技術博物館カメラ教室

子どもの撮影テクニックをプロが伝授

11月30日、工業技術博物館を会場に、ママのためのカメラ教室が実施された（博物館後援会主催、東武鉄道株式会社協賛、宮代町後援）。プロカメラマンの煙道伸麻呂先生を講師に迎えて、ニコン社製ミラーレスカメラ

の使い方と子どもを可愛く撮影するための技法を伝授した。

13組（保護者22名、子供21名）の参加者は、思い思いの場所での撮影、蒸気機関車の運転席や学食の体験など、楽しい一日を過ごした。



カメラの基礎を説明する煙道氏



各撮影スポットの前で撮り方をアドバイス

温故知新ものづくり学公開講義

革靴の製作を通してものづくりの本質を学ぶ

12月12日、「革靴の製作を知る」と題した公開講義が催された。コーディネーターは機械工学科の神雅彦教授が務めた。第1部は靴職人でアーティストの三澤則行氏が「靴の芸術」をテーマに講演を行った。職人としてのキャリア、靴をアートの表現するに至った経緯、その作品が海外で高く評価されていることなど



アート作品の説明をする三澤氏

第3部は本宮さんが学んだ靴製作学校の活動について、スタッフの米田秀氏が紹介した。同校には多様な経歴、職業の人々が集い、真剣に製作に取り組んでいる様子が紹介された。

第2部は機械工学科2年（発表当時）の本宮鈴翔さんが靴製作学校における体験談、革靴づくりの工程を紹介。「自分自身の手で靴を作るという体験を通して、ものづくりの原点に立ち返り、新鮮な気持ちで学ぶことができた」と振り返った。



靴製作で制作した作品を説明する本宮さん

行われるなどして聴講者との交流が図られた。公開講義を主催した「温故知新ものづくり学」は、日本の伝統的な技術や技能に着目する。学生は興味を持っていたテーマを持ち込み、教員と二人三脚で調査、体験、研究を進める。その道を究めたプロと交流しながら職人としての生き方、ものづくりの本質を学ぶ。

環境特別講演会

ネットゼロカーボン社会を目指した取り組み

12月21日、学友会館において環境特別講演会が開催された。テーマは、2050年カーボンニュートラル社会実現に向けた重要な施策のひとつであるCCS（二酸化炭素回収・貯留）技術に焦点を当てた。講演会は株式会社INPEXの飯田真司氏を講師に招き「ネットゼロ

学修支援センターピアサポート事業 スチューデントアシスタントとして後輩の指導に貢献した学生を表彰

学修支援センターで実施しているスチューデントアシスタント（SA）制度は、先輩学生が後輩と対面して専門科目の補習、授業の履修方法、レポートの書き方などをアドバイスするピアサポート事業である。双方の学生たちに大変好評で、同センター事業の大きな柱となっている。

1月22日、本年度秋学期における貢献が認められたSA学生が表彰された。特別アシスタント（SA）に多数回にわたり高難度の指導にあたったSAにはMVP賞が贈られた。その他の受賞者は下表の通り。

竹内学長は受賞者の貢献を労ったうえで「自分が持つ知識を他人に教えるとき、相手の反応を捉えて本心に理解できたかを判断する。この『気持ち』がとても大切だ。こうしたコミュニケーションは教える側にとっても貴重な経験となる」とSAの意義を強調した。



MVP賞：（前列左より）佐々木さん、新井さん、八島さん

トアシスタント（SA）制度は、先輩学生が後輩と対面して専門科目の補習、授業の履修方法、レポートの書き方などをアドバイスするピアサポート事業である。双方の学生たちに大変好評で、同センター事業の大きな柱となっている。

1月22日、本年度秋学期における貢献が認められたSA学生が表彰された。特別アシスタント（SA）に多数回にわたり高難度の指導にあたったSAにはMVP賞が贈られた。その他の受賞者は下表の通り。

SA MVP表彰者

Table with 3 columns: MVP賞, 貢献賞, 留学生对応賞. Lists names and departments of award winners.

学生による新企画が始動！ 植物育成プロジェクト

3月中旬には花が見頃になっているので、ぜひご覧いただきたい。



本学学生環境推進委員会は、2014年から8年にわたり継続した利根川強化堤防森づくりボランティア事業に代わる緑化活動として「植物育成プロジェクト」を立ち上げた。学内に花壇を作り、花や樹木を植えるなどして自然に触れる機会を増やし、生物多様性の保全を推進することを目的としている。正面ロータリー東側をフィールドに、パンジーの育成をスタートし



講師の飯田氏

最後に、聴講した学生に向けて「仕事というのは、教科書も答えもない。学生諸君には、様々なチャレンスをしてみたい。自分たち自身で納得のいく教科書を作りたい」という力強いメッセージが送られた。

カーボン社会を目指した取り組み」と題して行われた。INPEX社は日本最大の石油・天然ガス開発企業である。飯田氏は国内及び世界各地で長く石油や天然ガスの探鉱・開発等の仕事に携わってきた。講演では地球温暖化へのアプローチ方法から始まり、CCS技術の原理や社会的な意義、そしてINPEX社が現在注力している「首都圏CCSプロジェクト」（首都圏で集めたCO2を千葉県房総沖の廃ガス田に貯留しようというプロジェクト）の構想や今後の展望にまで及んだ。CCS技術に対して深く理解する貴重な機会となった。特に首都圏CCSプロジェクトについては、地下の地層を調べる地球物理探査技術・地層評価技術や安全かつ効率的な掘削技術及び地層貯留について分かりやすく解説された。

入学前に教員・同級生と交流

12月21日、2025年度入試合格者向け入学前準備学修の一環としてスクリーニングを実施した。大学入学の目的・目標の確立、学修意欲の向上、教員や同級生との交流を目的としている。竹内学長の挨拶に続いて



学科・コース別プログラム



保護者向けプログラム

天満宮例祭

今年の日本工業大学天満宮例祭は、2月15日1時から社殿前にて執り行われた。例祭当日は好天に恵まれ、雲一つない青空のもと、八分咲きの梅花が香る素晴らしい一日となった。

参加者は昨年同様、学内関係者に限定した例祭となった。宮司による祝詞奏上、柳澤理事長、竹内学長をはじめ、大学執行部、各部課長による玉串奉奠が粛々と執り行われた。



今年はコロナ禍以降、初めて学生自治会各委員会の代表者も参列し、中林中央執行委員長と伴に同拝した。本学の更なる発展と御神威の発揚が祈願され、滞りなく斎行された。

QR codes for official SNS (LINE, X, Instagram, YouTube) and a small image of a building.

ウォーキングチャレンジ

1日平均歩数が全国1位!

11月に開催された「ウォーキングチャレンジ2024」で本学は参加者の1日平均歩数が9,782歩となり、全国1位を獲得した。本学の113名を含む全国39大学・2団体、計7,239名が参加。12月20日、上位のグループ・個人に健康管理センターより賞品が贈呈された。参加者から「健康増進やコミュニケーション促進につながった」と、嬉しい声が聞かれた。



参加した学生、教職員（一部）



10月5日、春日部市民の日を記念した令和6年度春日部市表彰式にて、建築学科の佐々木誠教授に功労賞が贈られた。

埼玉県春日部市 功労賞を受賞

本賞は同市政の発展にたは保健・医療・福祉、生活環境、教育文化、産業その他の分野で顕著な功労があった個人・団体に贈られる。佐々木教授は同市の審議会など附属機関の委員を12年間にわたって務めてきた。その功績が認められ、今回の表彰に至った。

授は「大学の地域貢献として長年お手伝いしてきた春日部市の開発審査会では、市街化調整地域の開発や廃校となった小学校校舎の民間活用などに関する審査を行った。都心から比較的離れている郊外エリアの様々な課題に触れる機会となり、教育研究活動にも活かされた」と本学にとっても有益な取り組みであったと強調した。

11月8日から10日に中国の無錫で開催された中日国際超精密加工会議（CJUMP）において、工業技術博物館の清水伸二館長が功労賞を受賞した。同会議は中国と日本の研究者や学者が一堂に会し、精密工学、マイクロエンジニアリング、ナノテクノロジーの分野における新しい理論、技術、応用について議論することを目的としている。



清水伸二館長は工作機械の熱特性、結合部の接熱抵抗の解明など、工作機械や研削加工など生産工学分野の研究成果を超精密加工分野へ応用した貢献が評価された。

中日国際超精密加工会議 功労賞を受賞

表章に際し清水館長は「超精密加工を実現するために必要があり、そのための設計原理・原則を確立するための長年の研究成果が特に評価され、大変嬉しい」と語った。

学生・教員の受賞報告

(2024年度秋・冬)

各学会からの受賞が多数報告された。本学の教育研究レベルの高さを示す結果となった。学生自身の努力、指導教員の熱意に加え、工業系大学の中でも卓越した実験研究設備・施設の充実も寄与している。

日本ソフトウェア科学会 学生奨励賞／優秀発表賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程1年（橋浦研究室）

齊藤 悠太

受賞論文名：教授者のクラス配置に基づいた初學者向けクラス図作成支援手法
受賞日：9月9日



電子情報通信学会 学生優秀発表賞

電子情報メディア工学専攻博士前期課程1年（平栗研究室）

青山 幸瑠

受賞論文名：ドローン通信におけるマルチパスを考慮した指向性制御方法の検討
受賞日：9月25日



日本実験力学学会 優秀講演賞

機械工学科

小林 和也 助教

受賞論文名：粉粒体の撃力射出
受賞日：9月30日



日本建築学会 若手優秀発表賞

建築デザイン学専攻博士前期課程1年（那須研究室）

川嶋 涼太

受賞論文名：木造軸組構法の規格材を用いた十字柱ラーメン構造の開発～柱どうしの接合強度の違いによる構造性能の比較・検証
受賞日：10月4日



電子情報通信学会 最優秀ポスター賞

電子情報メディア工学専攻博士後期課程1年（平栗研究室）

遠藤 啓太

受賞論文名：ナシ開花モデルと気温予測アルゴリズムを用いたナシ花粉採取時期推定手法の検討
受賞日：10月30日



電子情報通信学会 ポスター賞

情報メディア工学科4年（伊藤研究室）

貝賀 瑠乃

受賞論文名：画像認識を用いたバナナの糖度推定に関する一検討
受賞日：10月30日



電子情報通信学会 ポスター賞

情報メディア工学科4年（伊藤研究室）

古矢 宇都美

受賞論文名：畳み込みニューラルネットワークにおける粒子群最適化によるオブティマイザの設計と性能評価
受賞日：10月30日



日本義肢装具学会 最優秀学生演題賞

機械システム工学専攻博士前期課程2年（柳橋研究室）

倉科 俊介

受賞論文名：関節リウマチ術後リハビリ用装具の開発～4節回転リンクによる負荷機構とMP関節角度無線伝送の実現～
受賞日：11月10日



日本磁気科学会 学生ポスター賞

環境共生システム学専攻博士前期課程2年（池添研究室）

内藤 友哉

受賞論文名：安定した複数点磁気浮上条件下での再結晶化過程の観察
受賞日：11月20日



木質構造研究会 学生優秀発表賞

建築デザイン学専攻博士前期課程2年（那須研究室）

水野 聖巴

受賞論文名：釘の一面せん断試験方法に関する研究～試験方法の違いが高耐力壁の評価にもたらす影響の検証～
受賞日：12月10日



- ①精密工学会 ベストプレゼンテーション賞
- ②砥粒加工学会 優秀講演賞
- ③日本塑性加工学会 ポスター発表優秀賞

機械システム工学専攻博士前期課程1年（神研究室）

木島 竜

受賞論文名：旋盤加工における切りくず制御に関する基礎的研究
受賞日：①9月6日 ②11月1日 ③12月11日



人事異動
〔任用〕(2月1日付)
◆三浦賢卓事務職員(教務課)
〔定年退職〕(3月31日付)
◆村田泰彦教授(機械工学科)
◆浦川慎之教授(ロボティクス学科)
〔退職〕(3月31日付)
◆中村明教授(専門職大学院)
◆弓削徹教授(専門職大学院)
◆木村貴幸教授(電気電子通信工学科)
◆高瀬浩史教授(データサイエンス学科)
◆荒川俊也教授(データサイエンス学科)
◆工藤裕美准教授(建築学学科)
◆林正弘准教授(工業技術博物館)
◆田口幸恵講師(共通教育学群)
◆渡部修一教授(応用化学科)
◆黒津高行教授(建築学学科)
◆岩崎利信教授(高大連携推進室)
◆青木信一嘱託職員(就職支援課)
◆沖久幸嘱託職員(学修支援センター)

国外出張

- ◆呉本亮教授(情報メディア工学科) / 出張先：韓国(12/25/12/28) / 目的：II/I ベータ版応用研究及び教育国際会議(ICIA RE2024)で研究発表
- ◆岡本和也教授(技術経営研究科) / 出張先：アメリカ(1/6/1/11) / 目的：ICES2022 5) 出席、内閣府SIP再委託業務に関するMLP上位階層の動向
- ◆廣田純子准教授(共通教育学) / 出張先：カナダ(2/23/3/23) / 目的：海外英語セミナー(集中講義、履修者引率)
- ◆一瀬厚一講師(共通教育学群) / 出張先：カナダ(2/23/3/3) / 目的：同前
- ◆藤澤早紀子講師(共通教育学群) / 出張先：フランス(2/27/3/3/5) / 目的：II/Fアッシュンショーパビリコレクションのモデルオデーションでの歩行計測
- ◆竹内真雄教授(学長) / 出張先：インド(3/1/3/5) / 目的：II/I/Dにおける高等教育機関
- ◆吉野秀明教授(データサイエンス学科) / 同前
- ◆ジョン・ポータス講師(英語学習サポートセンター) / 出張先：ニュージーランド(3/2/3/6) / 目的：II/D大学院生向け短期留学プログラム開催地の視察
- ◆長嶋仁美(英語学習サポートセンター) / 同前
- ◆石原次郎教授(情報メディア工学科) / 出張先：イギリス(3/3/3/12) / 目的：II/The Other Art Fair London 出張
- ◆野口憲治准教授(建築学学科) / 出張先：オランダ(3/10/3/17) / 目的：II/Oランダ国立世界博物館所蔵のシールコレクション調査
- ◆石原次郎教授(情報メディア工学科) / 出張先：アメリカ(3/24/4/2) / 目的：II/The Other Art Fair Chicago 出張
- ◆加藤史仁教授(機械工学科) / 出張先：ポルトガル(5/17/5/24) / 目的：II/Oイオセンサ技術に関する国際会議で研究発表
- ◆内田祐一教授(応用化学科) / 出張先：オーストラリア(5/17/5/25) / 目的：II/O欧州酸素製鋼会議(EOSC2025)で研究発表、近隣大学を訪問し討議
- ◆瀧澤英男教授(機械工学科) / 出張先：ドイツ(7/6/7/13) / 目的：II/O板成形解析国際会議(NUMIHSEET2025)で研究発表
- ◆佐藤進也教授(データサイエンス学科) / 出張先：イカタル(11/30/12/7) / 目的：II/Web情報システムに関する国際会議で研究発表

宮代町民まつり 実行委員募集!
卒業生のみならず、卒業おめでとうございます。また、在学生のみならず、ご進級おめでとうございます。例年8月下旬に開催される宮代町の一大イベント「宮代町民まつり」の実行委員を募集します!
卒業生のみならず、卒業おめでとうございます。また、在学生のみならず、ご進級おめでとうございます。例年8月下旬に開催される宮代町の一大イベント「宮代町民まつり」の実行委員を募集します!

4月から、4つの委員会に分かれて活動し、準備します。詳細については、町ホームページや広報3月号、二次元コードから確認できます。皆さんのご参加をお待ちしています。町民まつりを盛り上げて、夏の思い出をつくりましょう!
ホームページ
応募フォーム

※受賞記事は受賞時の学年(2024年度)で表記しています